

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22033		事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業			評価分類	A1	
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()								
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計		
		基本施策	09:自然との共生				款	06:農林水産業費		
		施策の方向	01:鈴鹿川等源流域の保全・継承				項	01:農林水産業費		
		重点プロジェクト	03:「しなやか田園都市」プロジェクト				目	06:林業振興費		
事業期間	H 26 年度 ~ R 5 年度		主な根拠法令等		みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施要領					

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)			
	災害に強い森林づくりと県民全体で森林を支える社会づくりを推進するため、県が平成26年に導入した「みえ森と緑の県民税」を財源に県内全市町へ交付金が交付されており、本市においても、この財源を活用し森林保全を進めていく必要がある。	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会、市民団体、市民	身近にある荒廃した里山、竹林の再生など暮らしに身近な森林づくりに取り組むとともに、将来に継承すべき豊かな自然や森林と市民との関係が身近となる機会を創出し、豊かな自然との共生や森林の役割についての理解を深める。	里山整備等を行う市民団体等へのウッドチップの貸し出し、自然公園「やまびこ」の整備を行うとともに、森の講座(チェーンソー講習)により森林保全の担い手の育成を行う。また、未就学児を対象とした木育・木工工作を行うとともに、森林環境イベントの開催や鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援を行い、森林保全に向けた機運を醸成する。			

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	事業計画		○事前伐採事業 ○竹林整備支援 ○木育・木工工作等 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援		○森の講座(チェーンソー講習) ○竹林整備支援 ○木育・木工工作等 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援					
	活動実績 (計画通り実施できたか)		台風等の倒木被害により電線などを寸断する恐れのある樹木について、事前伐採を0.05ha行った。里山・竹林生活環境保全事業としてウッドチップの貸出しによる里山竹林整備0.4haを行った。森と木材のふれあい事業として森林学習などを3回開催した。鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、イベント4回を開催し92人の参加者があった。							
	計画額	予算額	事業費	6,400千円	5,566千円	4,900千円				
			国・県支出金	5,200千円	4,743千円	3,800千円				
			地方債							
			その他	1,000千円	742千円	1,000千円				
	決算額	事業費	一般財源	200千円	81千円	100千円				
			事業費		5,536千円					
			国・県支出金		4,743千円					
地方債										
		その他		742千円						
		一般財源		51千円						
①期間内事業費(R4-7)		11,300千円		②期間外事業費(R8-)		0千円		①+②総事業費		11,300千円

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	5,566千円
次年度への繰越額	0千円

	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	災害からライフラインを守る事前伐採事業	伐採箇所数	活動	箇所	計画値	2			
					実績値	2			
	イベント実施回数	木育、木工工作などイベント実施回数	活動	回	計画値	3	3		
					実績値	3			
	講習参加者数	チェーンソー講習参加者数	成果	人	計画値		20		
					実績値				

⑤ 成果 (C)		事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	「みえ森と緑の県民税活用計画」に基づいて事業を実施できたことで、みえ森と緑の県民税・2つの基本方針の推進に寄与し、豊かな自然・森林との関係が身近となる機会を創出し、自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図ることができた。
		十分な成果を得た

事業の対象	事業の目的
鈴鹿川等源流の森林づくり協議会、市民団体、市民	身近にある荒廃した里山、竹林の再生など暮らしに身近な森林づくりに取り組むとともに、将来に継承すべき豊かな自然や森林と市民との関係が身近となる機会を創出し、豊かな自然との共生や森林の役割についての理解を深める。

(再掲)

⑥ 課題 (C)		事業の達成状況等を踏まえた課題事項
		みえ森と緑の県民税・2つの基本方針「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」をより広く浸透させ、豊かな森林を次世代に引き継ぐため、継続して取り組むことが大切である。

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和5年度で対応する(した)もの 「災害に強い森林づくり」への取組として、森の講座(チェーンソー講習)とウッドチップの貸出し事業を行う。 「県民全体で森林を支える社会づくり」への取組として、木育・木工工作等のイベントと鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援を行う。	令和6年度以降で対応するもの

【履歴】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A			
事業展開	継続(現状維持)			

1次評価者	産業環境部 農林振興課 農林政策GL 鳥喰 さとみ
最終評価者	産業環境部 農林振興課長 水越 洋光